

これからの地域福祉のあり方に関する研究会

報告(要旨)

常盤平団地自治会
会長 中沢 卓実

2007.11.9
東京・(財)商工会館

地域をまとめるポイント

1. 団地自治会の役員会を月一回定期開催する

- * 役員会の成功が事業活動の成功となり、地域コミュニティ再生の原動力となる。
- * 町会・自治会は、地区や地域を構成している基礎組織である。例えば防災防犯、ゴミ処理など問題処理に当たる地縁組織である。しかも民生委員を推薦する立場にある。それだけでなく、行政と協働しあうパートナーである。
- * 「地域空間を共有する人や組織に関する問題を処理する地縁組織である」。
(中田実 名古屋大学名誉教授)
- * 私は「まちづくりの基礎組織」であると考えている。
- * 代議員（各棟から1名の代議員、年3回の代議員会開催）。
- * 棟連絡員（会費集め、回覧等）。
- * 議案書を毎年度つくる。

2. 団地地区社会福祉協議会

- * 理事会を月1回定期開催。
- * 評議員、各団体の構成員。

3. 自治会の会報「ときわだいら」を定期発行

- 10月号(541号) 07.10.10 現在
- タブロイド版4ページ・8ページ(毎月全戸配布)
- * 団地社協は会報「福祉ネットワーク」を(年3回発行)
- * 会報は地域ぐるみで行うのに不可欠。
- * 会報の出来栄えにより、その団体の力量がわかる。
- * 団地社協は毎月「事務局ニュース」を発行。

4. 自治会役員と団地社協理事の兼任

- * 課題を共有し、課題の推進となり、地域ぐるみで取り組む推進力となる。
- * 毎月第3金曜日、午後2時理事会、午後7時30分から役員会を定期開催。
- * 両会議とも、報告と議題は7~9項目、実行課題を優先する。

リーダーの役割

1. リーダーが行うこと

- ①大いに汗をかき
- ②時には恥をかき
- ③大いに原稿をかく

実行企画の提案書の原稿

役員会、理事会の会議議題の設定

会報等の原稿

2. トップに欠かせない3つの配慮

- ①目配り
 - ②気配り
 - ③思いやり
- } やりすぎることはない。

3. リーダーの役割7つの心得

- ①道を示すこと
- ②企画を立てること(その能力を磨くこと)
- ③一緒にやる配慮
- ④人の悪口を言わない
- ⑤各政党とは公平に
- ⑥やさしく、思いやり(女性役員に対してはこのことが肝心)
- ⑦補って、補ってもらう

現場から学んで生かす(基本姿勢)

- 1. ①現場から学ぶ
 - ②実態から学ぶ
 - ③経験から学ぶ
- } アイデアを生みだし
実行企画を生み出す源である

2. 女性の力を重視する

(昼の主役は女性なり)・(男性より女性が強い)

3. 地域住民の「3つの法則」

- ①関心の高い住民
- ②中間的な住民
- ③関心のない住民

4. 体験から学んだ心得

①人のよろこびをわがよろこびとする。

それに「やりがい」「生きがい」をもつこと。

人々が与えてくれたよろこび、だと思う。

②「ともに喜ぶ二倍の喜び、ともに苦しむのは半分の苦しみ」を日々体験している。

住民に訴える心得

難しいことをやさしく やさしいことを深く

深いことを面白く ともに歩むこと

井上ひさしの心得

むずかしいことを やさしく

やさしいことを ふかく

ふかいなことを ゆかいに

ゆかいなことを まじめに 書くこと

参 考 资 料

孤独死の課題に挑む

—その経験と教訓—

常盤平団地自治会 会長 中沢 卓実

1 孤独死に直面して

- ①3年間発見されなかった白骨死体
- ②コタツに入ってうつ伏せ4か月

2 団地地区社協・団地自治会の取り組み

- ①孤独死110番システム
- ②シンポジウムの開催(毎年1回)
- ③新聞販売店(朝夕配達、月1回集金)、カギ専門店と覚書
- ④行政(国・県・市)へ働きかけ
- ⑤松戸市内孤独死(90名・50歳以上)の実態調査、公表

孤独死90人のデータが示す3つの特徴

- ①若年孤独死が30%
- ②旧市街地に多い
- ③女性より男性が多い

(東京都内1,451人、千葉県内763人、65歳以上)

- ⑥あんしん登録カードの呼びかけ
- ⑦松戸全域を視野に「まつど孤独死予防センター」を団地社協事務局に併設
- ⑧孤独死ゼロ作戦(4つの課題)を発表
- ⑨会報「ときわだいら」(団地自治会広報紙)を毎月10日に発行、全戸配布(5,359世帯)、常盤平駅、五香駅に掲示、発行部数7,000部

3 宣伝情報活動を重視

- ①会報「ときわだいら」3月10日号で510号
団地地区社協会報「福祉ネットワーク」(年3回)全戸配布、両駅掲示
- ②報道関係者へ情報提供、協力要請
- ③ホームページの活用
- ④福祉フォーラム、交流会等の開催による情報の共有と経験の交流
- ⑤定期的に役員会を開催。行動課題を協働、情報交換

☆毎月第2金曜日、団地社協理事会(午後2時～)を定期開催
そのつど「事務局ニュース」を発行、3月理事会で81号
☆毎月第2金曜日、団地自治会運営委員会(午後7時30分～)
議事内容、会報に掲載

4 学んだこと(教訓)

- ① 団地地区社協、団地自治会と民生委員が一体となって行動することが地域力を高める要
- ② 活動拠点の確保が重要な役割を理解
- ③ 宣伝活動を重視すること
- ④ 行政及び関係団体と地域の協働を実践
- ⑤ 孤独死の問題を地域ぐるみ福祉の課題として捉えることの重要性を認識
- ⑥ 人間の「生と死」について改めて考える契機に
- ⑦ 孤独死の予防対策に万全を期することの重要性を認識「孤独死ゼロ作戦」4つの課題を提示
- ⑧ 孤独死の課題は全国的なテーマであるという理解を深めたこと

リーダーの役割(7つの心得)

5 今後の対応

- ① 孤独死ゼロ作戦の推進
- ② 住民の詳しい実態把握
- ③ さらに行政への働きかけ
- ④ あんしん登録カードの活用と呼びかけ
- ⑤ 孤独死対策の経験交流
- ⑥ 取材活動への積極的協力
- ⑦ 「あいさつ」声かけの訴え

6 その他住民対象の事業

- ① 「常盤平団地敬老の集い」の開催(過去34回開催)年1回
昨年度敬老対象者(70歳以上)1,460名
- ② 「ホームヘルプ事業」(毎日)
- ③ 一人暮らし高齢者の「ふれあい会食会」の開催(年10回)
- ④ 「ふれあいサロン」(毎月)
- ⑤ 「いきいき大学」の定期開催(年10回)現在第6期
- ⑥ 「ふれあい福祉フェア」の開催(年1回)本年は第10回
- ⑦ 相談事業(電話相談(毎日)・対面相談(毎水曜日午前中))



「全国最強の自治会」と中沢卓実自治会長が言う常盤平団地

松戸市常盤平団地

「孤独死をなくす」取り組み

松戸市常盤平団地は市内で最も高齢化率が高い地区だ。しかし、孤独死問題に対する同団地の迅速かつ大胆な取り組みは着実に成果をあげ、(財)厚生労働問題研究会の「お年寄りの孤独死防止ハンドブック」でも大きく取り上げられた。その取り組みを紹介する。

01年の春、団地の台所の板の間で一人暮らしの59歳の男性が白骨死体で発見された。死後3年がたっていた。預金口座から家賃や公共料金が自動的に引き落とされていたため発見が遅れた。預金が底をつき家賃が滞ったことにより公団によって発見された。住民はショックを受け絶句したが、この時はどうしていいかわからなかった。

次の年の4月「近所のガラスに大きなハエが付着している。異常なもの」と住民から通報があった。

このことがきっかけとなり「孤独死についてみんなで考えよう」と中沢さんを中心に同団地自治

自治会 立ち上がる

国、県にも呼びかけシンポジウムも開催

全国初「まつど孤独死予防センター」を作った

中沢さんらは解決策を次々と打ち出した。まず、緊急時の通報ネットワークシステム「孤独死110番」などを整備。6月には1回目の「孤独死を考えるシンポジウム」を開催。9月には新聞配達などで異変を感じたらすぐに連絡がもらえるように、地域の新聞販売店に協力をお願いした。

「孤独死はもはや常盤平団地だけの問題ではない。県や国にも呼びかけよう」と中沢さんは奔走。森英介厚生労働副大臣を囲んだ6月5日の「孤独死を考えるシンポジウム2004」が実現し、1000人以上の参加者が集まった。

行政と 勉強会を行う

03年8月、松戸市常盤平団地自治会と常盤平団地地区社会福祉協議会は団地内で2回目のシンポジウム開催。その後行政と勉強会を行い、行政に市内の孤独死の実態把握を要請した。

今年になって、データ

みんな 支え合う

現在、中沢さんらは孤独死の早期発見・早期対応から一歩進めて孤独死の予防に取り組んでいる。

7月23日、常盤平市民センター内に日本で初め

の「まつど孤独死予防センター」を設置。同日「まつどフォーラム」を開き、孤独死に限らず緊急時の連絡先を記入する「あんしん登録カード」について説明した。団地全体では「孤独死ゼロ作戦」を展開中だ。

それにも同団地にはどうしてこれほどの行動力があるのか。実は同自治会は公団の団地建て替えを過去に阻止した経緯がある。平成12年までの約3年に及んだ闘いで住民の結束力が強まった。その結果、今ではそのパワーがすべて福祉に向けられるようになった。「全国最強の自治会だ」と中沢さんは笑う。

団や県の施策にも影響を与えてきた同団地の動向については今後も大きな期待を寄せたい。

— 常盤平団地 —

孤独死ゼロ作戦 (4つの課題)

1. 孤独死を発生させる社会的背景

- ①高齢化の進展とひとり暮らしの増加
- ②都市化に伴う近隣関係の希薄化
- ③核家族化の普遍化（最後はひとり暮らし）
- ④長期不況とリストラ、失業

2. 孤独死の実態把握

- ①ひとり暮らしの実態把握と「あんしん登録カード」集約
- ②事例を深く知り、学んで生かす（事例研究）
- ③サービス制度、システムの活用

3. 8つの対策

- ①孤独死した場合、早期発見・早期対応
- ②65歳以上ひとり暮らし「あんしん登録カード」の呼びかけ
- ③ひとり暮らしへの対応（訪問、助け合い活動、見守り活動、安否確認、各種サービス制度の紹介、介護保険の活用等）
- ④「通常時」及び「緊急時」の通報ネットワークの活用
- ⑤「向こう三軒両隣り」への気配り
- ⑥福祉よろず相談業務の充実
- ⑦関係団体との連携
- ⑧行政との協働と役割分担

4. いきいき人生への啓蒙、啓発

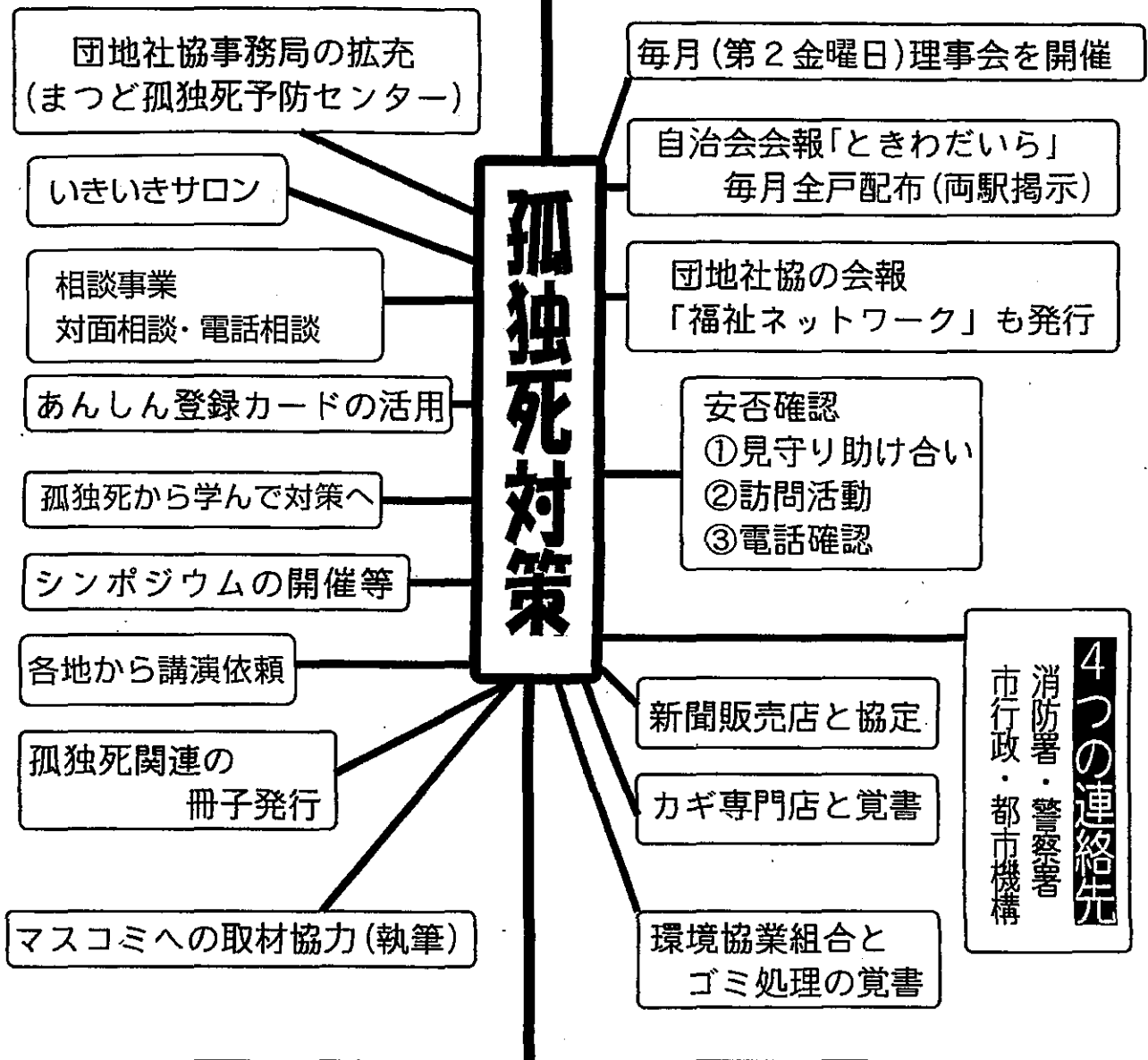
- ①地域福祉の事業活動への住民参加
- ②「いきいきサロン」の運営と住民の利用
- ③「とじこもり」をなくし、出会いの奨励
- ④「あいさつ」運動の呼びかけ
- ⑤仲間づくりへの配慮
- ⑥ユーモア感覚の開発と「笑い」の効用研究
- ⑦配偶者を亡くしたあとの「立ち直り」への励まし
- ⑧「死への準備教育」の研究（死をタブー視しない）
- ⑨「快食」「快便」「快眠」の奨励
- ⑩その人に見合う運動、スポーツの実行
- ⑪日常の生活習慣の改善
- ⑫その他



LPガスIT推進協議会主催の講演会で報告している中沢会長
(2007・12・19、東京・虎ノ門で)

孤独死対策の関連図

団地社協・民生委員・団地自治会一体感で対応

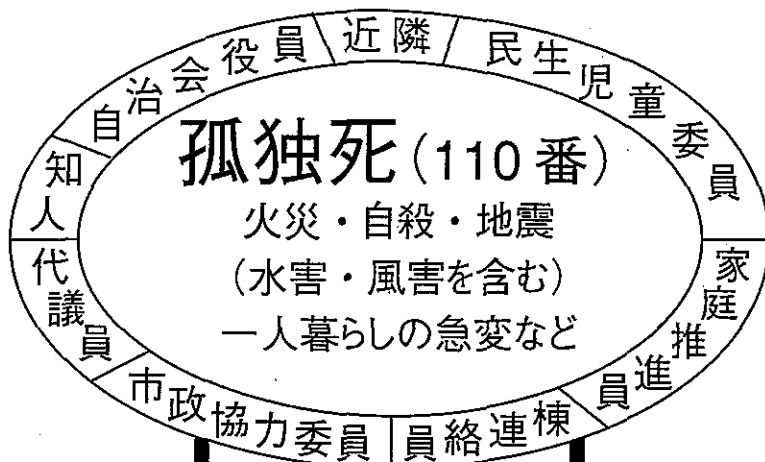


孤独死ゼロ作戦 (4つの課題)

(2ページ参照)

- (1)孤独死を発生させる社会的状況を見極める (4項目)
- (2)孤独死の実態把握 (3項目)
- (3)8つの対策 (8項目)
- (4)いきいき人生への啓蒙、啓発 (12項目)

緊急通報体制

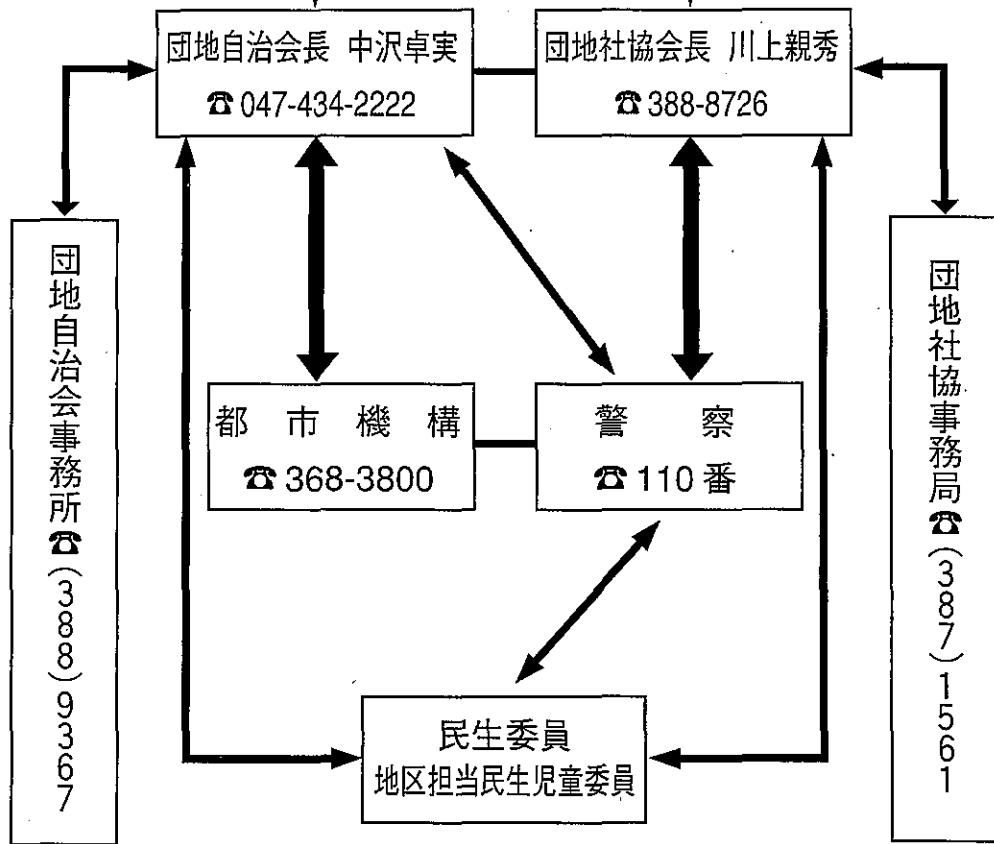


◆**団地社協の福祉相談**◆

▼テレホン相談
☎389-3010番
午前10時～午後3時

▼対面相談
毎週水曜日午前10時～正午

団地の孤独死の取り組みが全国的に注目されて、名古屋市長、滋賀県からも「報告依頼」があつて中沢会長らが参加しました。現在、「孤独死ゼロ作戦」を地域ぐるみで推進しています。



「あいさつ」運動の推進

「あいさつ」推進標語募集 (概要)

＜趣旨＞

「あいさつ」は幸せづくりのスタート——しかも健康いきがづくりの原点です。「あいさつ」を日常生活の中にとり戻し明るい地域づくりを進めます。そして互助の精神による「向こう三軒両隣り」の関係を豊にします。このような願いを込めて、「あいさつ」運動を発展させたいと思っています。この運動により住民相互の理解を深め、「声かけ」を奨励しあって、孤独死の「早期発見、早期対応」とその予防にも役立てることとします。

＜標語の募集＞

上記の趣旨により、松戸市民に「あいさつ推進標語」を募集する。

＜標語要領＞

- ①対象
- ②標語募集期間
- ③入選の賞

小学校1年生以上の松戸市民
7月10日から（締め切り日7月30日まで）
市長賞、市議会議員賞、教育長賞、松戸市社会福祉協議会会長賞、都市再生機構千葉地域支社支社長賞、松戸市政協力委員連合会会長賞、常盤平団地自治会会長賞、常盤平団地地区社会福祉協議会会長賞、常盤平団地自治会代議員会議長賞、佳作（数点）

主催 常盤平団地自治会、常盤平団地地区社会福祉協議会
後援 松戸市、松戸市議会、松戸市教育委員会、松戸市政協力委員連合会、松戸市社会福祉協議会



あんしん登録カード

団地社協からお知らせ

あんしん登録カード記入のお願い

常盤平団地地区社会福祉協議会（団地社協）では、都市基盤整備公団（都市公団）松戸住宅管理センターの協力を得て、松戸市、松戸市社会福祉協議会、常盤平団地自治会等の関係団体と協働し、団地住民の安心、安全を守る一環として別紙の通り「あんしん登録カード」の登録を実施いたします。

この登録カードを提出していただくことにより、事件や事故、火災、災害ないし孤独死等の緊急事態の際に、できる限り速やかに対応できるよう、事前に備えるものです。

緊急事態が発生した際、何よりも肝心なことは「関係者と連絡がとれる」ことです。「あんしん登録カード」はそのような時に関係団体（機関）に通報し、適切に対応するために利用させていただきます。

もちろん、カードの登録は強制的でなくご自身の任意です。しかもこの登録カードについては、団地社協が責任をもって管理し、緊急事態以外には使用しません。

- 記入対象者①65歳以上の夫婦世帯 ②50歳以上の単身世帯
③身心障害者の同居世帯 ④その他希望者
- 登録カードの提出
①平成16年6月30日から平成16年9月30日
②提出先は、封書に入れて、団地社協（市民センター内）電話387-1561。
または最寄りの民生委員宅（会報「ときわだいら」参照）までお届けください。
都市公団常盤平団地管理サービス事務所（電話387-3498）でも受け、団地社協に取り次ぎます。
・太線内には必ず記入してください。
・緊急連絡先は、最低1名を記入してください。
- 関係者に内容提示
緊急事態の際に常盤平団地内の民生委員（児童委員）、松戸市社会福祉協議会、常盤平団地自治会または福祉行政の担当、消防局等に提示し、適切な対応に資することとします。
- この登録カードについて
団地社協が管理しますが、必要に応じて公団に提示する場合があります。
この件についての連絡先
団地社協（常盤平団地地区社会福祉協議会）（電話387-1561）

項目	記入欄			備考欄	
号棟号室	—	街区	号棟	号室	
ふりがな				生年月日 明・大・昭・平 .	
契約者本人のお名前				男・女	
ふりがな				生年月日 明・大・昭・平 .	
同居者のお名前				男・女	
本人連絡先	自宅電話 () 携帯電話 ()				
緊急連絡先 <small>（親族又はこの地域にお住まいの友人・知人を記入してください）</small>	①	名前		関係	鍵を預けている人に○をつけてください。 希望者のみ、○を記入ください。
		住所			
		電話	()		
	②	名前		関係	
		住所			
		電話	()		
	③	名前		関係	
		住所			
		電話	()		
かかりつけの医師等	医療機関名 医師名 電話 ()			主な病名等 血液型 型(RH+/-)	

団地にお住まいの皆様へ

常盤平団地地区社会福祉協議会会長 川上親秀

- ※お願いとお知らせ
- あんしん登録カード提出後に記載事項に変更が生じた場合には、その旨をお知らせください。
 - この登録カードをコピーして登録者にお渡しします。
 - このカードの記載内容は、必要に応じて公団等関係者に提示する場合があります。
 - あんしん登録カードに関する連絡先は常盤平団地地区社会福祉協議会（団地社協）電話387-1561です。

いきいきサロン運営規則

いきいきサロン運営の適正化を図るために、この規則を定め、いきいきサロンの魅力づくりに努めることとする。

第一条 いきいきサロンは、有償ボランティアの世話人が日々運営に当たることとする。世話人は一日二人体制で担当する。

第二条 運営の適正化を共有し、円滑な運営を図るために、二か月に一回のわりあい世話人会議を開く。

第三条 世話人会議は団地社協会長が招集する。

第四条 いきいきサロンの営業時間は、原則として午前11時から午後6時までとする。但し、寒気の季節(11月から翌年3月の間)は午前11時から午後5時までとする。

第五条 いきいきサロンの入室料は一人100円とする。但し2階利用の団体については、このほか別途利用料を300円とする。

第六条 いきいきサロン内では、禁煙、禁酒とする。また、飲酒を伴う来訪者については退室を求めることができる。

第七条 いきいきサロン内では、来訪者に対して、無料でコーヒー、お茶などを提供する。このほか、弁当などの持ち込みは来訪者の自由とする。

第八条 サロン内では、音楽の演奏など楽しいミニ催しなどを開催できる。

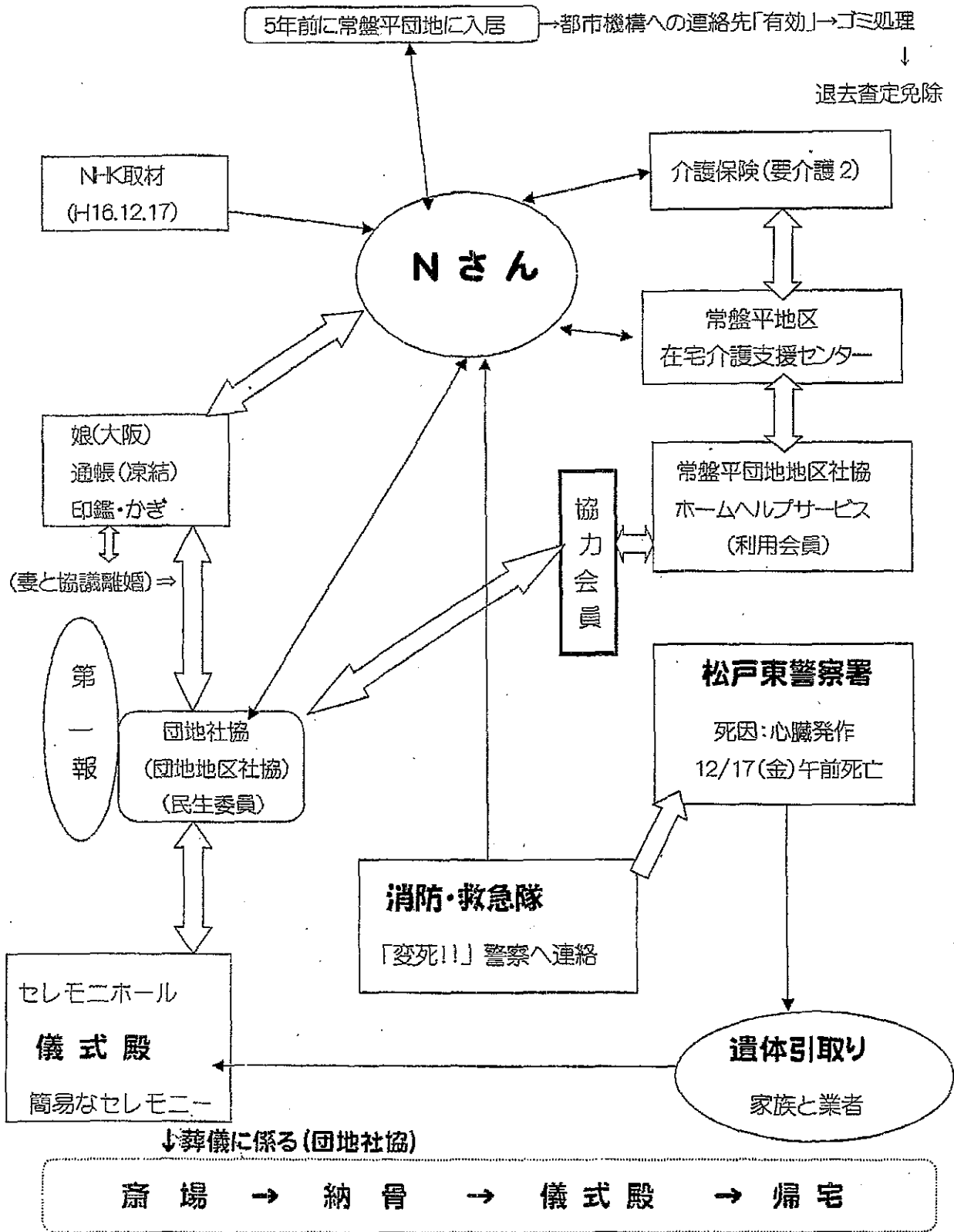
第九条 サロンの運営等に課題が生じた際には、世話人相互で連絡しあい、団地社協理事会で解決の道を示す。

第十条 この運営規則は平成19年11月1日から施行する。

即日発見した場合の孤独死対応の関連

Nさん男性・一人暮らし(60歳後半)

平成 16年 12月 17日に孤独死(その日の午前死亡、午後発見)



「孤独死ゼロ作戦」を 考えるフォーラム 2007

(主旨)

常盤平団地が地域ぐるみ福祉の究極の課題として捉え、取り組んで
マル5年。この間の取り組みを総括し、この経験をさらに生かし、地域コミ
ュニティーを発展させるために、以下の通りフォーラムを開催します。

日 時 12月10日(月)午後2時

会 場 常盤平市民センターホール

第一部 民生児童委員の交代
「ご苦労さん」「よろしく」

第二部 基調報告「孤独死の取り組み5年間の総括」
中沢卓実 氏(常盤平団地自治会長)

第三部 シンポジウム
《コーディネーター》
水嶋清司 氏(団地自治会副会長)

《パネリスト》

大嶋愛子 氏(団地社協会長)

鈴木貞夫 氏(松戸市健康福祉本部長)

小池昭夫 氏(都市再生機構収納業務リーダー)

田村 仁 氏(常盤平中央病院院長)

主 催 孤独死ゼロ作戦を考えるフォーラム実行委員会
(団地自治会、団地社協等)

後 援 松戸市、県社会福祉協議会、松戸市社会福祉協議会
老人クラブときわ会、常盤平環境会議、団地地区民児協
市政協力委員連合会常盤平団地地区、家庭福祉推進員
常盤平中央病院、江戸川大学総合福祉専門学校

《連絡先》常盤平団地自治会事務局 電話047-388-9367

常盤平団地地区社会福祉協議会事務局 電話047-387-1561